

日本の海岸線を歩く会 行動報告書

報告者 安藤 潔

1. 概 要

地域分類	四国:高知県:室戸岬
歩行区間	スタート地点:徳島県と高知県の県境
	ゴール地点:高知市桂浜
実施期間	2014 年 3 月 14 日～3 月 19 日
全歩行距離	約 121 km

2. メンバー表

No.	役割・分担	氏 名	年齢・期	歩行日数	備 考
1	リーダー	安藤 潔	73 歳・7 期	6 日	
2					
3					
4					
5					
6					

3. 歩行の概要

	月日	出発地 ～ 到着地	歩行距離	歩行参加者	備 考
1	3/14	自宅—海陽町水床トンネル—野根	14km	安藤	
2	3/15	野根—室戸岬	25km	安藤	
3	3/16	室戸岬—羽根大敷	20km	安藤	
4	3/17	羽根大敷—安田町東谷入口	15km	安藤	
5	3/18	安田町東谷入口—夜須駅	26km	安藤	
6	3/19	夜須駅—高知市桂浜—自宅	21km	安藤	

4. 参加費

一人のため井勘定とした。約 10 万円

5. 歩行記録

昨年の 11 月に徒歩と自転車で四国遍路を行い、1 番から 23 番札所まで終わり、徳島県と高知県の県境まで行った。高知県に入ると遍路道は 100km ほど海岸線に沿っている。そこで、今回の遍路は海岸線を歩

く会との二足のわらじを履くことにした。わらじをはき慣れないせいか、足のマメに悩まされされた。

2014 年 3 月 14 日 早朝 4 時半自宅を出発し、徳島空港牟岐線、阿佐海岸鉄道、バスと乗り継いで、12 時頃徳島、高知県境の水床トンネル手前に着き、国道を歩き始める。トンネルを抜けると甲浦（かんのうら）港や集落が見下ろせる。今回の歩行はほとんどこの国道 55 号を歩くことになるが、集落があると海側に道を造っている所が多い。

甲浦から 1 時間ほど歩くと野根の集落を通る。2km ほどの細長い寂れた集落だが天皇陛下献上の野根まんじゅうがあるということで、寄り道することした。

やっと探し当て、入り口を「がらがら」と開けると、おばあさんが出てきて私が何も言う前に「うちではばら売りはしていません」と一言。がっくりして店を出ると、すぐ近くに元祖野根まんじゅうなる店がある。本家でも元祖でもいいやと入り口を開けると、またもおばあさんが「うちではばら売りはしていません」。旅の途中で出来たてを 1 口食べたかったのに。箱入りは重たくなるので諦める。後日、高知市の土産物屋で野根まんじゅうは売っていた。

「ゴロゴロ、ごろごろ」突然海の方から腹に響くような、異様な音が聞こえてきた。空耳かと思ったが大きな音ではないが、確かに聞こえる。地面もかすかに動いているような気がする。地震かと思えば立ち止まったが音は続いている。気持ちが悪かったので国道の海側から山側に移ると音は聞こえなくなった。野根を出て 1 時間ほど歩いたあたりのことである。山が海岸線に迫り、海岸線の山を削って国道が続いている。野根から 10km 程人家はない。

4 時過ぎまで歩き、バスは 5 時過ぎまでないのでヒッチハイクで宿まで送ってもらうことにする。手を挙げ始めて 10 台ほどで地元の老人ホームの送迎車が止まってくれた。

その夜宿泊した民宿（徳増）の主人の話では、音が聞こえた付近はゴロゴロの浜といい、海中の岩が丸くなっており、波が高いと波で岩が動き、ゴロゴロ音がするとのこと。国道がない昔、お遍路さんは水際を歩き、死ぬ人も多く、死者が海中から呼んでいると、怖がられたということである。鳴き砂というのは日本のあちこちにあるが、鳴き岩というのは初めて聞いた。

宿の同宿者は一人歩き遍路ばかり 5 人、皆 60 才を過ぎ、般若湯が入ると遍路の話で多いに盛り上がった。

3/15 宿の主人に昨日歩き終えた地点まで送ってもらい、7:45 歩き始める。この日の歩行距離 25km のほぼ中間点に宿があったので、前半は荷を持たないで歩く。晴れてはいるが風は冷たく、山シャツの上に海岸線を歩く会のシャツ、その上に遍路用白衣を着て歩く（写真次頁）が、汗もかかずに歩ける。

9 時半頃、佐喜浜町通過、スーパーアジの姿寿司購入。

10:45~11:15 徳増に戻り、購入した寿司を食べる。美味。

午後から荷を持つようになると荷が肩に食い込み、ペースが少し落ちる。ほとんど海を見ながら国道沿いを歩く。



3 時頃、弘法大師空海が若い頃に修行した御蔵洞（みくろど）に着く。洞窟は奥行きが 20m はあり、生活するに十分な広さがある。洞内から外をみると空と海が半々見える（写真次頁）。空海の名前の由来となった洞窟内で般若心経を読む。半年ぶりの読経はスムーズに読めなかった。室戸岬の手前から 24 番札所、最御崎寺（ほつみさきじ）に向かう参道に入る。標高差 165m を 30 分かけて登り、4 時、最御崎寺に到着する。山門での礼から始まり 40 分ほどかけて参拝を終える。この日の宿は最御崎寺の宿坊なので山を降りる手間はない。土曜日のためか団体客で満室とのことで、大広間を区切った部屋で寝かされた。風呂が広いのと安いわりに（5, 000 円）食事が良かったのでよしとしよう。



3/16 7:20 あらためて最御崎寺に手を合わせた後、室戸岬に向かう。

8:30 室戸岬（写真上）。道路が曲がっている先はゴツゴツした岩で、徐々に海中に没している。徳島県から南に一直線に歩いてきたが、室戸岬からは北西に向きを変えて歩くことになる。岬を過ぎると人家が増えてきた。そのあたりの道のありようは、車が楽にすれ違える道の両側に人家があり、この道が遍路道になっており、海側の人家のすぐ先に国道があり、国道の海側は堤防になっている。海中に堤防を造り、国

道を造ったと思われるところが多かった。人家の立ち退き問題を考えると、この方法が一番安上がりであろう。海岸線を歩く会で歩くべき道はもちろん国道であろう。しかし、遍路の場合は遍路道でよい。どの道を歩くべきか、歩きながら多いに悩んだ。そこで出した答えは、国道と人家一軒隔たった遍路道は国道の歩道である。車の排気ガスを吸わないように人家を間に入れて歩道がある、と勝手に解釈して遍路道を歩くことにした。

9:50 25 番札所、津照寺（しんしょうじ）に着く。参拝、読経 40 分。太子堂への石段が工事中で本堂が太子堂を兼ねていた。

津照寺から 1 時間歩き 26 番札所金剛頂寺への登り口に着く。そこから海岸線を離れ標高 165m の寺まで登る。

11:50~12:30 金剛頂寺参拝（写真）。



この日は効率よく半日で 2 つの寺に参拝できた。

遍路の下山路は山の反対側にあるのだが、海岸線を切れ目なく歩くため登山口に戻り、海岸線に沿って歩く。

13 時半行当岬。13 : 50~1415 食堂で昼食休憩後、16 時 30 分までひたすら歩く。4 時を過ぎるとさすがに歩く意欲が失せたので羽根大敷からバスで奈半利に向かう。宿は奈半利町の山郷旅館。

3/17 昨日の宿は割烹旅館というだけあり安い割に料理が美味かったが、泊り客は私一人だった。さて、早朝豪華な朝食を食べていると、腹の奥から何やらこみあげてくるものがある。やばい、とトイレに駆け込む。腹の中の朝食は無くなってしまったが、休んでいるわけにもいかずバスの時間も迫っているので、これ以上悪くならないよう祈って宿を後にする。

7 時半、昨日歩き終わった所までバスで戻り歩き始める。幸いその後腹の調子は順調だった。客が一人の宿は要注意である。

歩行2日目の朝、サングラスがない事にきがつく。前日のヒッチハイクの車の中に忘れたようだ。天気も良く、海岸を歩くにはサングラスは必需品である。しかし、2日目のコースは小さな集落ばかりで眼鏡屋は無さそうだった。3日目の昨日、久しぶりに小さな商店街を通った。町の人に眼鏡屋があるか聞いてみると、100m程脇に入ったところにあるという。早速、行ってみたが、シャッターが閉まっている。昨日は日曜日なので定休日であった。

今日こそは、と宿で眼鏡屋の場所を聞き、朝バスの中からシャッターの降りた眼鏡屋を確認する。歩き始めて3時間後、この眼鏡屋の前に差しかかる。幸いシャッターは降りていない。が、押しても引いてもドアが開かない。外出中、という小さな札が架っていた。2.3 軒先のコンビニで聞くと、500m程先のホームセンターにあるとのこと。そこで売れ残りのサングラスが300円で買えた。この店を出てしばらく歩いた所にまた眼鏡屋があった。奈半利の町はなかなか大きな町だ。

11時 昨夜の宿に到着。預けた荷を引き取り再出発。荷がズシリと感じる。

12時～12時半：安田町の小さな道の駅のスーパーで昼食を買い食べる。

13時 27番札所、神峯寺（こうのみねじ）登り口に到着。遍路用品以外の荷物は見えないところ放置して標高430mの寺を目指す。曲がりくねった車道、時には並行している険しい山道を登ること1時間半、やっとたどり着く。神峯寺の手入れの行き届いた立派な山門の脇に神峯寺社（こうのみねじんじゃ）の古びた鳥居が並んでいる。神社の方が創建は古いが現在は訪れる人は少ないようだ。鳥居を貸して本堂を取られる、の好例であろう（写真）。



途中で歩いている人には合わなかったが、寺には多くの車とお遍路さんがいた。遍路を始めるのが数年遅かったら、私も車道のお世話になっていただろう。山を下り国道に出たところで16時半になったので、歩行をやめ、バスで安芸市に向かう。この日の宿はビジネスホテル弁長、夕食はさびれた居酒屋でとった。

3/18 7時半、バスで昨日の歩き終わり地点に戻り、歩行再開。歩き始めてすぐに小雨が降りだす。午前中の歩行は国道と堤防上の道が半々であった。堤防は海面から10～20m、堤防上の歩道の幅は2～3m、

歩道の海側にはさらに高さ 1m 幅 50cm 程の堤防がある（下の写真）。昔はこの高さ 1m の堤防は所々幅 1m 程切れ目があり、階段で海に降りられるようになっていたようだ。しかし、この切れ目のほとんど全てが新しいコンクリーで埋められるか、金属製の重そうな引き戸で塞がれている。高知は南海トラフ地震の津波警戒地域なので三陸沖地震を教訓に急遽作ったのであろう。この堤防の切れ目を埋める津波対策を思いついた役人は今頃「低予算で有効な仕事できた」と、栄転を夢見て役所で居眠りしているであろう。しかし、これでは地元の人が海に出るには高さ 1m の堤防を乗り越えなければならない。年寄には酷な作業である。「海で貝を採りたいけど、堤防を乗り越えるのがしんどいから家で居眠りしようか」という声が聞こえてきそうだ。

歩きながらこの堤防上の切れ目をコンクリーで埋める対策の津波に対する効果を考えてみた。高さ 10m の堤防（イ）上にさらに高さ 1m の堤防（ロ）があり、長さ 500m 毎に幅 1m の切れ目があるとする。10m 以下の津波が来た場合は（イ）の堤防が防いでくれる。11m 以上の津波の場合は（ロ）の切れ目がなくても同じである。万一、10～11m の津波が来たときには、切れ目をふさいだ効果が発揮される。しかし、500m 毎の幅 1m の切れ目から流れ出た海水による被害などないと考えてよいだろう。切れ目から流れ出た海水により堤防が破壊されるとでも考えたのだろうか。どう考えても弊害の方が多い津波対策に思えてならない。などと取り留めもない事を考えながら歩いていると、はるか遠くに霞んでいた岬がすぐ目の前に来ていた。



10 時半 昨夜のホテルに寄り預けた荷を受け取る。ホテルのある安芸市は奈半利と同程度の大きさの町に見えた。昼食は町の総菜屋で鯖寿司や野菜の煮物を購入し雨の中、屋根のある公園で食べる。

午後はサイクリングロードを 14km、4 時間歩く。午前中の堤防より幅広く作った堤防をサイクリングロードと名づけ、遍路道にも流用しているものだ。小雨が降っているせいか、自転車には 1 台も合わなかった。

16 時 土佐黒潮鉄道・ごめんなはり線、夜須（やす）駅で歩行を止め、宿に向かうことにする。電車に乗るべくホームに駆け上がると、丁度電車のドアが閉まった所だった。しかし、私を見た運転手兼車掌

さんは再度ドアを開け、乗せてくれた、感謝。民宿、游庵の食事も美味かったし相客の遍路仲間も楽しかった。1日小雨模様の天候だったが良い日だった。

3/19 7時半、夜須に戻り歩行開始。堤防下のシラスの製造、直売所でシラスを1kgほど土産に購入、美味かった。9時前、赤岡駅、遍路道はここから北に向かい、4km歩くと28番札所大日寺に着くが今回は海岸線を主にしたため、高知市桂浜目指し、海沿いに堤防上を西に向かう。海岸から山が遠ざかり、人家が増える。海岸は岩ではなく砂浜の所が増える。高知市に近づくと堤防上を歩けないところが多くなり、堤防下や砂浜を歩く。500mほど砂浜を歩いた時は孫の土産にきれいな石を拾いながら歩く（写真）。



13時、市街地に入り県道・国道歩きとなる。14時浦戸湾に架る浦戸大橋に至る。海面まで50m、風もあり歩道が狭いので怖々歩く。14時半、桂浜到着（写真次頁）。今回の歩行の終着地である。30分程桂浜を散策し、月の出を待たずにはりまや橋に向かうバスに乗る。土佐空港で一人寂しく完歩の祝杯をあげ、22時には自宅に帰り着いた。



昨年、軽い気持ちで遍路を始めた。バスでは味気ないし、歩きは時間がかかり家庭の事情が許さない。中を取って自転車と歩きにした。遍路宿でお遍路さんと話していると、「3 回（めぐり）目の歩き遍路です」「5 回歩き今回は路線バスで回っています」口数の少ない人が「10 回目です」という。悟りに至る道は遠い。一方、百名山を 3 回登りましたとか東海道を 2 回歩きましたという話はあまり聞かない。遍路では 1 番の寺から始め、88 番の寺を参拝したら終わりではなく、お礼参りと称してそのまま 1 番の寺まで行き、ぐるりと一回りして終わりとなる。そのまま 2 回目の遍路を始める人もいる。また、納め札は遍路の回数により色が違い、何度も遍路に来たくなるように出来ている。

今回は 6 日間で海岸線 120.5km（内 50km 以上は堤防歩き）、遍路道 10km を歩いた。一口で言うと、高知県の海岸は堤防で埋め尽くされていた。海岸線歩きでは堤防上を歩くべきか、歩かざるべきか、それが問題である。堤防は水平で歩きやすいが、突然終わっていることがある。